

公民館だより

60.3
由良地区
公民館

公民館の歌

- 一 平和の春に あたらしく
郷土を興す よろこびも
公民館の つどいから
とけあう心 なごやかに
自由の朝を たたえよう
- 二 心の花の におやかに
郷土にひらく ゆかしさも
公民館の つどいから
希望の胸に 美しい
文化の泉 くみとろう
- 三 働くものの 安らかに
郷土に生きる たのしさも
公民館の つどいから
まどいになごむ ひとときに
明日の力 そだてよう

報告 (一)

主事 平間 克己

- 一 文化祭(音楽の部)公民館協賛
ピアノ・エレクトーン発表会
日時 十一月三日 十二時三十分
会場 由良小学校体育館
講師 坂下文子・中西玲子 岸田美穂子
(敬称略)
- 二 公民館対抗囲碁大会
日時 十一月十一日 午前九時〜午後四時
会場 吉津公民館
出場選手 山下良作・谷口宥全
中西 衛・中西国雄 竹村寛三
(敬称略)
- 三 文化祭(作品の部及びバザー)
日時 十一月十八日 午前九時〜午後三時
会場 由良幼稚園
今年の作品は、昨年比で少なかったが、優秀作品ばかりであった。しかも今年の観覧者数は、四〇〇人以上であり、由良人口の五分の一に相当し、過去の文化祭の最高である。このことは、由良婦人会による文化祭参加バザーによる影響力があればこそと思えます。バザー展は、今年も会場玄関に店開きをし、時々爆笑が起る等、明るい

雰囲気の中で行われた。新鮮な地元産の野菜のほか、生活必需品、更にうどん、せんざいが市価より安い。味は上々、しかも混雑をさけるため、バザー第一会場はうどん、バザー第二会場はせんざいと、決め細かい配慮が人気上昇の要因であったと思えます。

観覧のコースは、先ず作中の観賞から始まり、小室桂泉先生の茶の接待のお手前を載き、幽雅な境地で芸術品を観賞し、家族連れでうどん、せんざいを食べ、帰りには気に入った品物を買って帰る楽しさが、皆様に喜ばれる文化祭になったのだと思えます。今後、もうこうした文化祭であることを祈りたい。

四 新春囲碁大会

日時 一月二日、午前九時より
会場 由良中央公民館(老人憩の家)
出席者 十一名
成績 優勝 大石俊雄氏
準優勝 谷口宥全氏
三位 今西秀雄氏

五 成人式

日時 一月十五日、午前九時より
会場 宮津公会館
宮津市成人対象者数 三五〇人(男二二一人、女二二九人)
成人式に出席された由良成人数 二〇人(男一〇人、女一〇人)

成人式に出席された由良成人者の紹介

(敬称略、別音順)

- | | | |
|----------|-------|-------|
| 磯田由美 | 磯本由美 | 矢野貴幸 |
| 上羽康一 | 岸田則良 | 熊田純子 |
| 田中勝典 | 田原 啓 | 柁岡裕子 |
| 坂本正明 | 大森由美子 | 田中佐奈江 |
| 千坂香織 | 中西浩子 | 森田耕一 |
| 吉岡隆司 | | |
| 酒田恵子 | 酒田昭美 | 藤本 守 |
| 下谷浦 柁田 衛 | | |
- 六 無形文化財保存世話役会
日時 一月二十日(日) 午後一時より
会場 由良の里センター
一 無形文化財保存会会長に、自治連合会会長中西嘉重郎氏を推す
二 世話役のメンバーは、各自自治会より正副六人を限定し、未定の自治会には要請すること
三 先ず太鼓、祭囃子、踊りの型を決めること
- 七 市政懇談会
日時 一月二十七日 午後一時より
会場 由良の里センター
中西、山下両市議会議員を招き、宮津線及び宮津市役所支所出張所廃止問題等、宮津市にかかわる重要問題を具体的に聞き感銘した。

65

八第四回四部對抗囲碁大会

日時 二月三日
会場 由良の里センター
成績 優勝 一部 準優勝 二部
九第五四回四部對抗男女バレーボール大会
日時 二月十日 午前九時三十分
会場 由良小学校体育館
成績 男子の部 優勝 一部 準優勝 三部
女子の部 優勝 三部 準優勝 四部

特に今大会より、優勝杯二個新調致しました。従来の優勝杯は小さく、毎回の熱戦に応えるため、故中西林兵衛氏、故大森金藏氏の御供養の寄附金より流用させて載せ、故人の御遺徳を永く偲ぶため銘を入れ優勝杯と致しました。
尚、当日の試合がスムーズに運び、午後二時過ぎ全試合が終った。
時間的に余裕があったので、予技的に男子優勝チームと女子優勝チームとの試合をしてはどうかの意見が出、両チームの了解の上、試合をすることに成り、男子優勝チームの勝ちとなりました。
こうして和やかな中に、第五回バレーボール大会が終了の幕を閉じた。



会となりまして。
中西議員からは、議会の大きくなしくみと現在取り組んでいる特別委員会が説明があり、山下議員からは、予算のしくみと当地域に關連する事業についての説明がありました。
その後で懇談となり、今後の展望と取り組みについて、次のような意見の交換が行われました。

支所・出張所の廃止問題について、現在では、出先機関の業務のほとんどが文書の配付となっており、これを自治会に委託し、経費の節減を図りたいとしており、自治会の了解を得たうえで、行財政の見直しとして早急に結論を出したい意向でありました。
これについては、由良地域が不利とならない方法を採るように話し合われましたが、それには地域住民が不便とならないことが大前提で、地域によっては、それなりに事情が異なる様子であり、画一的な方法で無理が生ずるようでは、市政における混乱の要因になりかねず、又、迎地住民の「取り残される」ことだわり、感情の払拭等、十分に検討をする納得の時間が必要ではないかと考えられ、財政運営の健全化を目指すにも拙速であってはならないと思えます。
宮津線廃止問題について、昭和六十年には、赤字ローカル線廃止基準により、宮津線も含めた追加路線が選定され

報告 (二)
由良無形文化財保存会脇世話人追加
太鼓係 飯沢登志朗氏
祭囃子係 瀬野福藏氏
踊り係 浜田君枝氏

市政懇談会に出席して

川崎利晴

一月二十七日、由良の里センターで公民館主催により、公民館運営委員、各分館長並びに文化・体育部長が集まり、中西、山下両市会議員を囲んで市政懇談会の催しがありました。
出席者のひとりとして、その模様と感想を、独断と偏見により述べてみたいと思えます。
当日の会場となった一階会議室は、空席となつた多くの座布団から「無関心、無気力」のつぶやきが出るほどの参加人数でした。
折角の機会であり、身内の勉強会とするなら、それぞれの都合もあることではしうが、参加し、話し、考えることに意義を見出し、積極的な取り組みが期待されます。
懇談会については、主催者側の配慮により、両議員を囲むように座を寄せ半円の車座による懇談形式としたので、打ち解けた雰囲気の中

ようとしており、存続策として、宮津線の利用促進と国に対する政策の見直しを訴えたいとして協力を請われました。
これについては、既に自治会長を通じて署名運動を行っており、利用促進については、宮津線の存続が剣が峰にある現状を更に認識し、安易な期待感が暗い幕引きにならないよう、一人でも多く利用の実績を上げるように話し合いました。

なお、由良地域の交通政策に想いを馳せると、当地域に關連する事業説明によれば、●府道(綾部-大江-宮津)路線の整備 ●宮津バイパス(杉ノ末-須津)の早期着工が計画されており、既に国道一七六号線(福知山-加悦)が整備され、奥丹後の交通の流れが変ったとさ之言われております。更に府道(八戸地-栗田-宮津)路線が、工不研含みで改良された場合を想定すれば、当然由良地域は工不研のポットになる可能性が予測され、又宮津線の廃止は否もたも無く組上上げられようとしております。若しこれが決定すれば、廃線が免れたとしても、第三セクターか、バス転換等で現在より質的な低下は避けられず、従来の点から線のイメージが崩れ、過疎化現象が加速し、遂には観光地由良が抹消される日が杞憂されず。
蘇生の途を模索するとき、由良バイパスへ八田-由良-栗田)路線の早期実現を期待し

京阪神の絆を観光路線に繋ぎ、年間を通じての地場観光産業の開発を図ることが、昔年層の流失を防ぐ唯一の方策ではないだろうかと思いついた。フット宮津線廃線が危懼だけには終わってほしいと思つた。願望がよぎった。懇談会を終えて、この企画に参加できた喜びを感謝し、主催者に謝意を表すると共に、両議員には、地域発展に益々のご活躍をお願いして稿を終ります。

団基大会に参加して

一部 前 畑 今 吉

年末からの寒波来襲で降り続いた雪も、節分を迎えると、暦に合わせたように道の雪はすっかり消えて、街のペイルヴに映る陽射しに早や春の息吹きが感じられます。二月三日、晴天に恵まれて、寒気もひととき和らいだ由良の里センターに於て、四部対抗団基大会が開催されました。例年のことながら、一部(脇地区)は成績が芳しくなく、参加することに意義のあるような戦績しかないのが、今年の特に病気が上りの方が二名いるという心もとない編成の中で、佐原、秋田、中西の各氏と前畑の四名が出場しました。それだけに肩の力を抜いて、自然流に構え

たせいか、それとも意気込みのせい、病身を押し出場で選手がよく健闘してくれまして、あれよあれよという間に、終盤になつた。逆転優勝を遂げてしまいました。勿論、要因はいろいろありましたが、それにしては、試合の流れというものは、一つのリズムがあるとも考えられるのです。それは去る一月十三日、宮津市農協主催にて、新春市民団基大会が催されたときのことでした。

由良地区選出の二チームが、優勝、準優勝を手中に治めました。そのときの優勝チーム(選手五名)のメンバーの三人までが、今回一部出身の選手だったということですが、偶然と云えばそれまでですが、「勢いに乗る……」ということ、試合というものは、そういうものか、知れませんが。團基同好会の皆さんも、今後とも研究を重ねて、よい成績を上げて下さい。そして由良区民の皆様も、棋力に抱らずに、団基同好会に入会されて発展されることを切望致します。

乗車の輪
宮津線の廃止が決つてから
では選ずるべきです。
かけ声よりも実績がものを
いいます。

「やりました、やっと勝ちました」二月十日由良校体育館で行われました第五回四部対抗バレーボール大会で優勝することが出来ました。

毎年我がチームは、年齢的に考えて勝てる優勝候補は一部であると思つて参加しておりましたが、試合というものは、昔いだけ、パワーだけで勝てるほど甘くはなく、今年初めて優勝させていたいただきました。

毎年この大会は、二月に行われており、寒いのは当然ですが、例年はとりわけ寒い日に行われておりました。しかし、今年は二月にしてはそう寒くない日に開催され、一日を楽しく遊ばせていただきました。

バレーボールは、東京オリンピック以来、その道を求めておられる方には失礼ない方ですが、手軽に出来るスポーツとして、一般によく普及しております。しかし、女子の部は、バレーボールサークルの方が多く参加しているものの、男子は一部を除き、大半が年に一度バレーに触れる人が多いうように見受けられました。専門家がなければ、これでもバレーボールかというふうな場面も多々ありますが、所詮素人の大会、一日を楽しく遊び、親睦を深めれば目的達成と考えております。大半の人がこのように考へ、参加しておられるのではな

しかし、オリンピック時にいわれる「四年に一度の愛国心」ではありませんが、我が部に対する応援、他部への野次も入り、やはりスポーツですから勝つことが必要(体育なら参加すること意義あり)であるとも考へております。この大会も今年で五回を教へ、年々若い人の参加が増えてきて、自分の身体は「我れら三十代、やる気はあるけど身体がついてこなくて地味でいってありますが、冬の運動不足の解消にもなり、一年の冬の行事として、これからは続けてもらいたいと思つています。

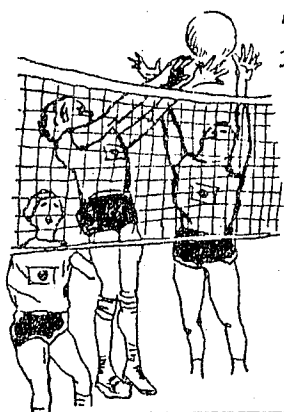
一部 北 野 薫

四部対抗

バレーボール大会に参加して

中西 ぎく代

二月十日公民館主催による四部対抗バレーボール大会が、由良小学校体育館において開催されました。昨年は雪が多くて、寒い日での試合でしたが、今年には雪もなかく暖かな日曜日、男女とも四部に分かれ



総当たり戦、午前九時開会式とともに、男子の二部対四部から始まりました。

- 一 位 三部(決野路)
- 二 位 四部(港・石浦)
- 三 位 一部(脇)
- 四 位 二部(宮本)

結果は以上の通りでしたが、ボール等長いことさわった争のない人も、サークル等で活躍している人もみんな一生懸命、いづれも甲乙つけがたく接戦試合ばかりでした。バレーボールのサークルでは、最近若い人達も増え、日曜と木曜日、午後八時頃より練習しており、反まには何もかも忘れて、スポーツに熱中する時間もある。は！と考え、私もサークルに通うようになって、足掛り四年になります。皆さんも、おもしろいまり体を動かして、いっしょにいい汗流しませんか。

宮津市民バレーボールに参加して

昭和五十九年十一月十一日、私達バレーサークルは、宮津市民バレーボール大会の女子の部に参加しました。前年度は、男女混合のチームで出場し、三

うな、こんな言葉をかかわしながらコートに入りました。

さすがに相手チームは、優勝を何回もしているだけあって、落ち着いてよくボールを拾った。しかし、由良も負けずはいません。ぞくぞくといいプレーが出て、応援席から「うまい」と声をかけられ、ほめられるとどんと調子が出てくる。本場に試合のリズムに乗り、レシーブ、トス、スパイクと、思い通りのボールが相手チームのコートに決まり、気持ちよかったです。栗田チーム、少しあせり始め作戦タイム要求、由良もコートのすみで集った。みんな汗びっしょり。コートの隅に、崎さん「今日はみんなよく動くなあ」と、ええ試合や、この調子でがんばれ」と励まされ、またコートに戻り試合再開、栗田もなかなかねばり、また強いサーブが入り、シューティングで、実力は五分五分でした。しかもポロポロとあっけなく負けしてしまうくせがあるのです。今日は違います。本場によくボールを拾いねばりませんでした。そして勝つことが出来ました。由良優勝、みんな手をとり合って喜びました。特にベストメンバースをそろえた栗田チームに勝つことが出来たのです。とてもうれしかったです。

成人を迎えて

成人と言ふ人生の節目を迎えて、僕は本当に成人になったのだろうかと思う。そこで

成人を迎えて

藤本 守

栗井久枝さん、中西 巴さん、川崎美幸さん
中西伸子さん、大森敬子さん、川崎典子さん
森岡俊子さん、土岐尚子さん、玉垣泰子

以上

位となった経験があります。週二回のサークル活動の日に練習するので、みんなそれぞれ忙しい身体で、なかなか全負揃って練習する事が出来ず、試合の前日にやっと九人の選手が集まり、最後の調整をし、翌日会場である海洋センターの体育館へ行きました。

二ヶ月前に、せめてユニホームの上着だけでも揃えようという話がまとまり、白地に真赤な襟、胸にはローマ字で「ユラ」と書かれた、一流選手並みの真新しいユニホームに身を包み、まず一回戦に挑みました。

はじめは、少し固くなって動きが悪かったけれど、相手がポロポロとミスをしたので、うん、そんなに強い相手じゃない、落ち着いたら勝てるぞ」と思い、「皆な声を出して行こう」と、気合を入れて、「スーライ、緊張がほぐれ動きが良くなった。練習のときのようにリラックスして、のびのびとプレーができ、楽勝だった。

二試合目も調子よく勝ち進み、ちょうど身体のほぐれたところで、三試合目と駒を進めました。この試合は勝つたら優勝になる。相手は、宮津市の試合にはいつも上位の成績をおさめている栗田チームです。皆んなの心は、「今日こそ栗田チームに勝つんや」と言う思いで一つになり出陣した。「声を出して行こう」といいプレーが出たら、「タイス」とほめ合お

成人とはどういうことか辞典で調べてみた。
成人とは……おとな。一人前の人間。こどもが立派なおとなに成長すること。と。こう書いてあった。果して私は、一人前の人間になったのだろうか。立派なおとなに成長したのだろうか。そうは思えない。外観は立派なおとなのように見えるも、中味がまだまだおとなに成長してはいないように思う。
私も成人を迎えたのだから、外観だけなら、中味のある立派な一人前の人間として、社会に通用するよう生きて行きたいと思ひます。



成人式を迎えて

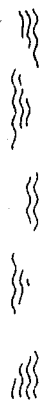
酒田 恵子

歳月は、人を待たずとしか。遠いことのように思っていた成人式を迎えて、二十才になつたのだと言ひ聞かせながらも、実感の湧かない今日この頃です。大人の仲間入りすることになり、期待と希望を持っていた私でしたが、いざなつてみると十代の愛着が大きく、過ぎたしまつた歳月にただ後悔するばかりです。人生の大きな区切りに立った今、私は限らない人生の道のりを一歩一歩前進しようとしていきます。自分にきびしく生きると言うことは、大変なことだと思ひけれど、両親、まわりの人達に支えられながら、社会という大空

へ巣立とうと思ひます。

着つけも終り、鏡の前に立ったときの、あの言葉に言いつくせない感激をいつまでも忘れることなく、きびしい冬の寒さにもたえて、春になれば美しい花を咲かせる草花のように強く生きていきたいと思います。

二十才の新しい門出に立った今の気持ちを大切に、もう一度自分自身を見つめ、新たな目標を目指して進みたいと思ひます。先輩の皆様によりよいご指導を心よりお願いして、成人を迎えた私のささやかな気持ちの一端といたします。



思う

熊田 熊一

一 国鉄宮津線の事

龐大なる国鉄赤字は、親方日の丸に甘えた人災に因る。国鉄の大使命をよく守り、適正運賃と内部の能率的大改革を推進すれば、やがて赤字となる。昨年運賃に地域差をつけたり、増額するや幹線は値上げ幅を少なく、僻地は多くするや矛盾です。僻地は値下げして、乗客数を増す可き也。ガラガラの空箱運転は、改む可き也。私店では、雑誌の残本を毎月東京へ返送していましたが、運賃が運

三 血圧測定について

血圧は季節、時間、運動後、精神的動揺等で変るといわれて居ります。血圧測定は、いつも暖かい室で充分休んでから受けましょう。お節介下ら。

送店と比べて五割から八割駅の方が高かったのです。それがあらぬが、宮津線内の数ある書房の内、駅から返送する方は殆どありません。昨年ビールが約二割上がってさへも、ビール離れして焼酎ブームに拍車をかける時代ですもの。
国鉄は、廢止予定線に限り運賃を半額とし、地域民へのせめぎ合の罪亡しとするならば、多額の急逆に赤字に転換すると思ひ。勿論、内部の能率的大改革と値下げの宣伝も是非必要です。
罪は客になく国鉄にあり、御一考を得れば幸甚。

二 絶対健康法

八十八歳男の考え方

健康は幸福の源泉。…二飯がいつもおいしく、動作がらくで心楽しく、健康にも迷惑をかけぬ。

私の健康五則

- 一 万物の御恩に感謝し、いつも明朗か
- 二 正食：全体食（たとは玄米食の如く）
新鮮。何でもたべて偏食せぬ。温質食品（たととは根菜類）よくかむ
- 三 体をよく動かす。疲れたら休む
年が寄つたら重労働はさける
- 四 環境 新鮮な空気、日光、適温適湿
規律 早寝早起き時間正しく
- 五 三度の食事時間正しく

報告 (三)

「夏行冬曆」の前篇「夏行」は、三十有年前の由良の風土に独自の美を展開しつつ、当時高技教師、青年医師であつた吾者が一夏を由良に滞在、自らの保養体験を通じて描く情感豊かな中篇小説。後篇「冬曆」は佐渡が舞台である。著者は歌人、文芸評論家で昨年まで宮中歌会始の選者であつた。主な著書に、「斎藤茂吉」、「西行・実朝・良寛」、「俗と無常」その他歌集など多数。
(中西夏江)

一寄贈 夏行冬曆（上田三四二著）十冊
中西夏江氏
二寄附 参千円 藤原花枝氏